

スイッチOTC薬って何？

No.34 (H16.6)

最近、テレビなどでよく耳にする“スイッチOTC薬”の“OTC”とは「over the counter」(オーバーザカウンター)の略です。皆さんもドラッグストアなどでお薬を購入する時、カウンター越しに受け取られることがあると思います。この様子を表現した米国生まれの言葉です。日本では「大衆薬」とか「一般薬」とか呼ばれ、病院で医師の処方せんで調剤される「医療用医薬品」と区別する意味で使われます。

スイッチ OTC 薬とは医療用医薬品をドラッグストアなどで大衆薬として購入できるように「スイッチ」したもので、通常の OTC 薬よりも強い効果が期待できます。もちろん、スイッチ OTC 薬も OTC 薬の一つであり、ドラッグストアなどで医師の処方せん無しに購入できるお薬です。

しかし、OTC 薬は医師の診断を受けない手軽さがある反面、医師による管理がなされません。安全性を確保するため、含量を医療用医薬品より抑えている場合が多いようです。それでは、「全ての医療用医薬品成分が含量を減らせばスイッチ OTC 薬になるのか？」ということ、そうではありません。OTC 薬がセルフメディケーション(自己健康管理)で使用される以上、全ての医療用医薬品成分というわけにはいきません。副作用が比較的少なく、安全性が高い成分であることが条件となっています。

ただし、医療用医薬品としては、承認済みの医薬品ですが、一般用としては初めての有効成分を含有する医薬品ですので、新一般用医薬品として承認後3年間の市販後調査(PMS)が原則として義務づけられています。

スイッチ OTC 薬の本格的導入は、1985年にインドメタシンの外用貼付剤から始まりました。その後、鎮痛剤、胃腸薬、水虫薬、便秘薬等、いろいろなスイッチ OTC 薬が発売されています。その数は、かぜ関連の商品が最も多く、次いで外用薬、消化器官用薬の順に成分が配合されています。これら発売の背景には、近年の医療費抑制策もあると考えら

れ、今後もさらに多くのスイッチ OTC 薬が生まれると予想されます。

1 つ注意していただきたいのは、OTC 薬やスイッチ OTC 薬は医療用医薬品に比べ効果が弱いぶん、副作用が少なく安全だと考えてしまうことです。ドラッグストアなどで手軽に購入できてしまいますが、医薬品であることには違いがありません。医薬品である以上は副作用や相互作用といったリスクを伴うため、購入の際には薬剤師に相談し、使用上の注意をよく読み、用法・用量をしっかりと守って服用することが必要です。

スイッチ OTC の薬を服用しても症状が良くならない場合には、早めに医師の診察を受けて下さい。

また、他の薬との飲み合わせの悪い場合もありますので、他の薬を服用されている方は、必ず医師、薬剤師に相談して下さい。決して自分の判断だけで長期服用しないで下さい。

副作用の初期症状、服用期間、医師への受診のタイミングなど患者さん自身から積極的に薬剤師に情報提供を求めて下さい。

もし、何かおかしいなと感じたら医師、薬剤師に遠慮なくご相談ください。